

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	御手洗 敬信
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 A Novel Risk Stratification System “Angiographic GRACE Score” for Predicting in-Hospital Mortality of Patients with Acute Myocardial Infarction: Data from the K-ACTIVE Registry (急性心筋梗塞患者の院内死亡率を予測するための新しいリスク層別化システム「血管造影 GRACE スコア」: K-ACVITE レジストリーデータより)
	掲載誌 Journal of Cardiology 2020 (in press)
	主査 宮入 剛 副査 木田 圭亮 副査 小川 普久
<p>[論文の要旨・価値] [目的] 欧米で考案された The Global Registry of Acute Coronary Events (GRACE) score は急性心筋梗塞 (AMI) の正確なリスク評価システムである。しかしこのシステムは緊急経皮的冠動脈形成術 (PCI) の普及以前に考案されたもので、現在の日本人において適切な評価であるか不明である。本研究の目的は、1) 早期に PCI で血行再建を受けた日本人 AMI 患者のリスク層別化における Grace score の有用性を明らかにする。2) 心筋梗塞責任病変と PCI 前後の血流の状態を加味した新しい Angiographic GRACE score の有用性を検証する、ことである。</p> <p>[方法] 2015 年から 2017 年の間に神奈川循環器救急レジストリー (K-ACTIVE) に登録され発症から 24 時間以内に PCI を受けた連続 1817 人の AMI 患者を対象とし、臨床経過と院内死亡率の関連を調査した。</p> <p>[結果] 1817 例中 79 症例の院内死亡が確認された。GRACE score、Angiographic GRACE score とともに院内死亡群で有意差 ($p < 0.0001$) をもって高値であった。GRACE score の ROC 曲線分析による AUC は 0.86 で、Cut-off 値は 170 で、GRACE score >170 での病院死亡率は感度 84%、特異度 75%と予測した。Angiographic GRACE score の AUC は 0.89 で GRACE score より有意差 ($p < 0.05$) をもって高値であった。Cut-off 値を 200 に設定した場合、Angiographic GRACE score が 200 未満の患者の院内死亡率 0.6%は、200 以上の患者の 9.4%と比較し極めて低率であった。</p> <p>[結論] GRACE score は PCI での早期再灌流療法を受けた日本人 AMI 患者の院内死亡の有用な予測因子である。さらに筆者らの考案した Angiographic GRACE score は予後予測因子としての機能を向上させ、AMI 患者を効率的に管理できる可能性を示した。</p> <p>以上、本論文は AMI 患者における GRACE score、Angiographic GRACE score の有用性を明らかにしたものであり、臨床的に価値の高い論文であり、学位授与に値すると考えられた。</p>	
<p>[審査概要] 審査は主査 1 名、副査 2 名、陪席者数名で実施された。PC を用いた約 20 分のプレゼンテーションとそれに続く約 40 分の質疑応答が行われた。質疑応答では、①レジストリーの方法、② Angiographic GRACE score の計算方法と意義、③術後管理への有用性、などについて質問がなされたが、おおむね的確な回答が得られた。</p>	
最終試験結果の要旨	
<p>[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 学位申請者の研究推進能力、専門的知識、研究意欲などについて問題がないものと判断した。また、英語能力は参考文献の一部を和訳することで評価し、十分な読解力があるものと判断した。発表態度は真摯であり、今後の研究の発展に対する意欲も十分に感じられ、学位授与に値すると考えられた。</p>	